

2008年3月

マリン・エコラベル・ジャパン協議会

審査の主目的は、水産資源の持続的利用や生態系の保全を図るための資源管理活動を積極的に行っている漁業者の取組みを評価することである。審査機関は以下により審査を行う。

第1 認証基準等

- (1) 生産段階認証の審査は、以下の要件を基本に別に定める認証基準と認証指針により行う。

管理体制に関する要件

確立された実効ある管理制度の下で漁業が行われていること。

対象資源に関する要件

対象資源が持続的に利用される水準を維持していること。

生態系への配慮に関する要件

生態系の保全に適切な措置がとられていること。

- (2) 認証基準、認証指針及び審査項目

M E L ジャパンは、上記の3要件を基本に認証基準を定め、それを適用するための技術的な指標として認証指針を定める。審査項目は実際に審査を行う場合のチェック項目である。

審査機関は、申請者の特性に応じ適切な審査項目を選択しガイドラインを設定し評価する。

認証指針、審査項目は、関係者及び社会の広範な意見、漁業管理の新しい知見、認証実績から得られる知見等を踏まえ、必要に応じ改正する。

第2 認証の単位

- (1) 認証の申請は、生産段階認証にあつては、生産者（漁協、団体等を含む）ごとに同一漁法による対象漁獲物を特定して審査機関に対して行う。
- (2) 必要な場合、流通加工段階認証と一括して申請することができる。
- (3) 生産現場において、生産者が行う漁船上での漁獲から、水揚げ、荷受（卸）への引渡しまでの各過程において、認証水産物と非認証水産物の混合が起きる可能性があるため、必要な場合、生産者は生産段階認証に併せて、流通加工段階認証を取得しなければならない。

第3 審査の方法

- (1) 審査の方法は、書面審査と現地審査からなる。
- (2) 書面審査は、申請書等に関する文書の審査等である。
- (3) 現地審査は、申請者との面談及び実行状況に関する現地調査からなる。
- (4) 現地調査は、現地関係者からの聞き取り及び現地での踏査などにより、申請内容の再確認を行う事を目的とする。
- (5) 現地調査は、必要に応じ行政機関や研究機関などの関係者と連携し行う。
- (6) 審査記録は、認証の有効期間である5年間保管する。

第4 評価方法

審査機関は、認証単位の特性によって書面審査と現地審査を適切に組み合わせ、ガイドラインにより、申請が認証基準を満たしているか否かを認証指針に即して審査する。行政機関や研究機関等との連絡により、改善策等で審査の目的を達成しうると判断される場合は評価することができる。

第5 年次監査

審査機関は、認証の有効期間（5年）の間、認証指針、審査項目の改正等による追加審査を含め、認証事業体の認証内容について適時に管理審査を行いMELジャパンに報告する。

第6 異議申し立て

- (1) 審査機関は、申請者から当該機関に持ち込まれる認証についての異議申し立てを、定められた手順によって処理をする。
- (2) 審査機関は、以下の事項を実施し、MELジャパンに報告する。
認証に関する全ての異議申し立ての記録及びその処置の記録の保持。
適切なその後の処置。